

肩甲骨

内側縁

上角・下角



1分 study

目次



- 1 肩甲骨内側縁について
- 2 上角について
- 3 下角について
- 4 触診

● ●
簡単に解説します!!

要約の参考文献

【運動療法のための機能解剖学的触技術】

【プロメテウス・コアアトラス】

執筆：林 典雄

監訳：坂井 建雄

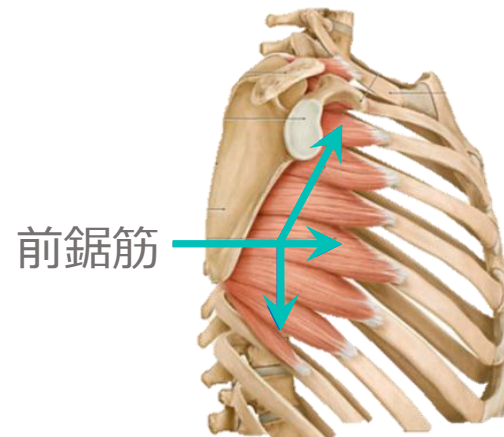
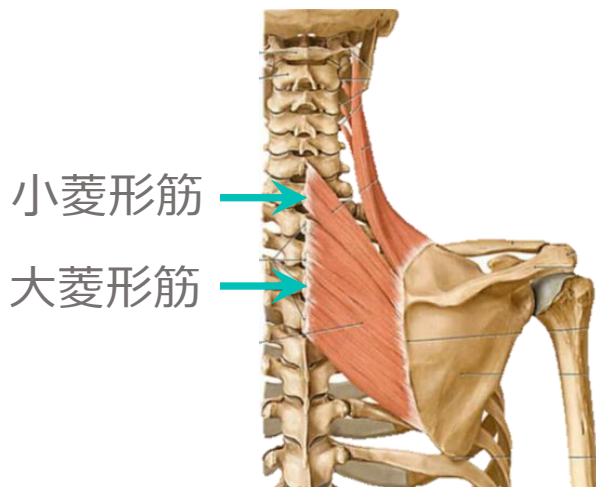


肩甲骨内側縁について

内側縁とは？

知識

- 1 肩甲骨の内側を構成する縁を内側縁とよぶ。
- 2 大菱形筋，小菱形筋，前鋸筋が停止する。
- 3 前鋸筋麻痺では，肩甲骨内側縁が胸郭から浮き上がる現象(翼状肩甲)が観察できる。

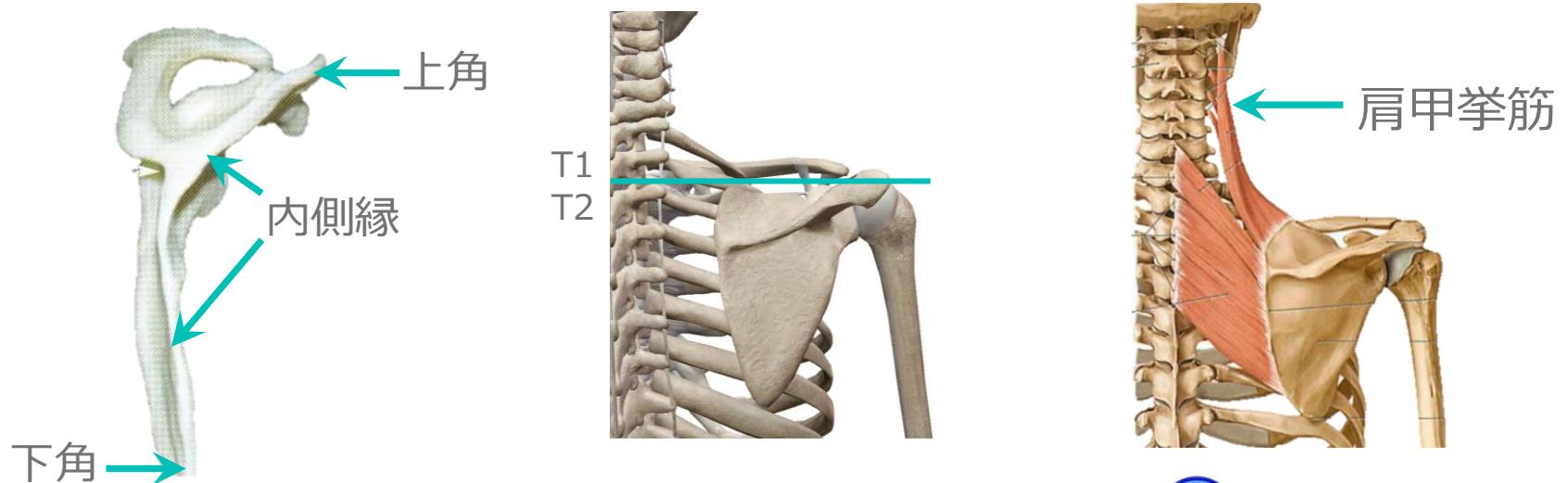


上角について

上角とは？

知識

- 1 横から肩甲骨をみてみると、下角と上角の位置は一直線上にないことがわかる。
- 2 第1・第2胸椎棘突起間に位置する。
- 3 肩甲挙筋が停止する。

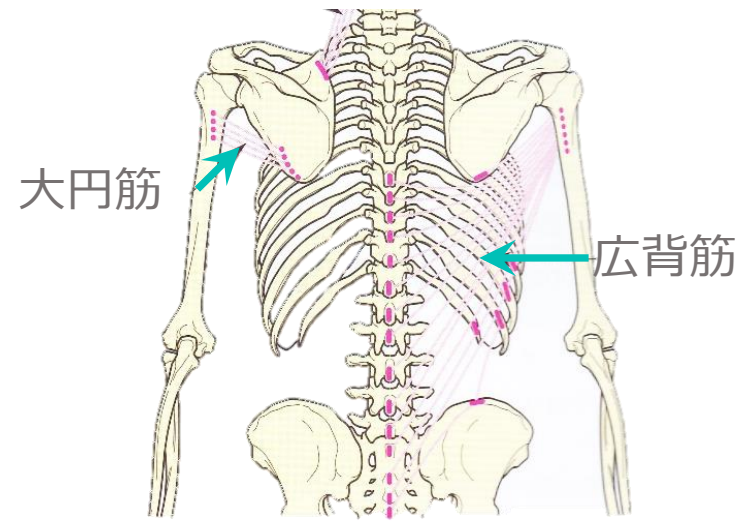
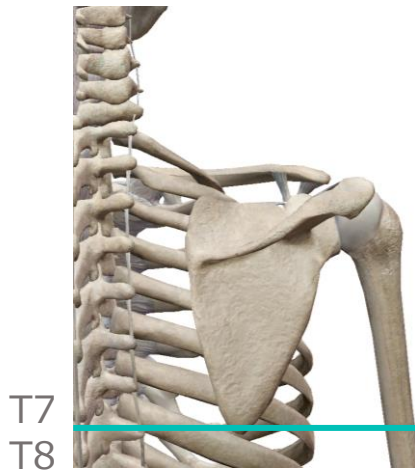


下角について

下角とは？

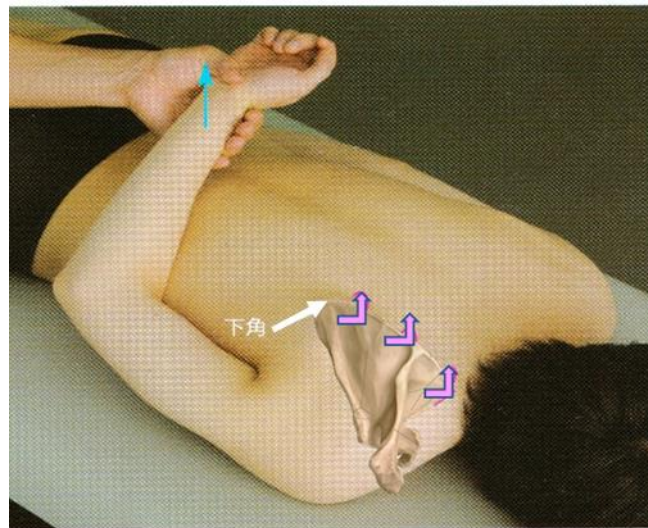
知識

- 1 第7・第8胸椎棘突起間に位置する。
- 2 大円筋と広背筋が起始するとともに，双方の筋を区別する重要なランドマークとなる。



手順

- 1 肩関節を伸展・内転させる。
- 2 胸郭から内側縁が浮き上がり，その位置を確認する。
- 3 もう一度肩関節を元の位置に戻し，触れる。



手順

- 1 下角は内側縁に沿って触れていくと確認できる。
- 2 上角は下角を回転させる要領で内側・外側へと動かす。
上角は前方に曲がっているため、意外に触診は難しい。
- 3 下角を動かすことで上角も付随して動くため、上角の大まかな位置を把握できる。

